

映画が到達したスリルとサスペンスの極限。この着想。この面白さ。

シネマスコープ / カラー作品

ミクロの 決死圏

SF映画史上不滅の最高傑作ここに甦える！

2度と見られない抜群の特撮技術で描く
驚異のミクロ決死圏！

fantastic voyage

ラファエル・ウェルチ ■ ステイファン・ボイド ■ アーサー・ケネディ ■ アーサー・オコンネル
エドモンド・オブライエン ■ ドナルド・ブリーゼンス
製作ソール・テビッド ■ 監督リチャード・D・フライシャー ■ 脚色ハリー・クライナー ■ 音楽レナード・ローゼンマン
FOX映画 / 松竹・富士映画共同配給

fantastic voyage

★スタッフ★

製作……………ソール・デビッド
 監督……………リチャード・D・フライシャー
 脚色……………ハリー・クライナー
 原作……………オットー・クレメント
 ジェイ・ルイス・ピックスビー
 音楽……………レナード・ローゼンマン
 撮影監督……………アーネスト・ラズロ

★キャスト★

グラント……………ステイーブン・ポイド
 コーラ・ピーターソン……………ラクエル・ウェルチ
 カーター大尉……………エドモンド・オブライエン
 医師デュバル……………アーサー・ケネディ
 医師マイケルズ……………ドナルド・ブリーゼンズ
 ドナルド・リード大佐……………
 アーサー・オコンネル
 ビル・オウエンス大尉……………
 ウイリアム・レッドフィールド



ミクロの 決死圏

＜カラー作品＞

上映時間 1 時間40分

松竹・富士映画共同配給

SF 映画史上、最高の傑作!

最近でも「猿の惑星」「2001年宇宙の旅」「宇宙からの脱出」「アンドロメダ」と、数多くの素晴らしい空想科学(SF)映画が公開されてきた。

奇抜なアイデア、特撮効果の見事さ、異常な緊張感、そして科学的な根拠、裏付け、あらゆる人材を駆使し、製作費35億円という巨費を投じて完成されたのが、この「ミクロの決死圏」である。まさにSF映画史上最高の話題作である。

スリルとサスペンスにみちた特殊効果の見事さは、近年類を見ない。この素晴らしいアイデアは、脚本のハリー・クライナーが書き、世界的なSF小説の大家であるアイザック・アシモフまでが、リライトして小説化したと言われている抜群の着想である。撮影に「大空港」「ザッツ・エンタテインメント」のアーネスト・ラズロがあたり、人間の体内を美しい色彩で映像化し、息をもつかせぬ演出は、「トラ・トラ・トラ」「ソイレント・グリーン」のリチャード・D・フライシャー、と超一流スタッフによって、娯楽超大作が出来上がった。

3600秒/サスペンスが始まった――

特別仕立ての飛行機を迎える、アメリカ特別情報部は、空港内にもものしい警戒体制をしきつめた。チーフであるグラント(ステイーブン・ポイド)は、チェコから亡命して来る科学者の到着を待ち受けていた。彼の顔には厳しきの中に一抹の不安を見せている。不安が的中した。敵側情報部の突然の襲撃によって、博士は重傷を負う。症状が判明した。クモ膜下腔出血、外科手術は全く不可能なのだ。博士の命を救う道はない。遂に驚くべき手術が実行された。人間をミクロ化すること、博士の体内に潜入、腫瘍患部をレーザー銃で治療するという破天荒の実験だ。制限時間はわずか60分しかない、すべてをその時間内で解決させなくてはならない。アメリカの

CMDF(総合ミニチュア統制軍)総指令官カーター大尉(エドモンド・オブライエン)は、5人の隊員を選んだ。潜行艇プロテウス号に乗り込む隊員たちは、情報部チーフ、グラントを筆頭に、CMDFの脳外科医デュバル(アーサー・ケネディ)、その助手で美人のコーラ(ラクエル・ウェルチ)、潜行艇の先導役であり循環器の専門医マイケルズ(ドナルド・ブリーゼンズ)、そして海軍所属のオウエンス大尉(ウィリアム・レッドフィールド)が潜行艇を運転する。わずか3600秒だ。だが隊員の中に一人、敵側のスパイがいるという情報が入った、犯人は?体内で予期せぬ出来事が、次々と5人の隊員たちにふりかかってゆく。サスペンスが起った。

圧倒する完璧な特撮シーン!

この映画ほど、特撮シーンの凄さを見せつける映画はない。潜行艇ごと5人の人間をそのままミクロ化するという物語のもとで、体内の各器官が事実に基づき作られた。毛細管、心臓、肺臓、耳(中耳と内耳)、脳髄、肺動脈、リンパ結節、各種の血液系統の部分などが拡大再現された。体内撮影は毛細管から開始したが、ファイバー・グラスで作られ長さ30メートル50センチ、幅15メートル25センチ、血管は長さ12メートル、幅6メートル71センチと、どれ一つとっても巨大な器官が、次々に撮影されていった。心臓は4メートル、内耳は9メートル、巾21メートル、脳内部は30メートル×61メートルで制作されたという次第である。特撮規模の大きさもさることながら、あらゆる科学者、人材を使っすべて実物以上にそっくりと作られ、製作費35億円によって作られたこれらのシーンに、美術・装置・色彩賞、特別視覚効果賞の二つのアカデミー賞が贈られた。

12月4日(土)より驚異のロードショー

渋谷東急文化会館1階

渋谷 **パンテオン** (407) 7219